

快適合宿の秘密はコレだ!

「ノドが渇いたよ」「手が冷たいよ」「おなかがすいた」と言いたい放題。そんなとき、「我慢なさい」「わがまま言わないで」では、あまりにもかわいそう。

フレンドリー・サッカークラブでは、親と一緒にいない旅行だからこそ、不愉快な思いをさせない工夫をしている。常にコーチのザックの中にスポーツドリンクや替えのグローブが用意されている。食事は全部食べられたという自信と満足感を与えるために、子供たちの人気メニューを揃える。そして、濡れてしまった小物は、ふとん乾燥機で一気に乾かしてしまう、などなど。大切なことは、滑れるようになることよりも、自然の中で、いかに気持ちよく雪と遊び、楽しめるか、ということなのだ。



濡れたものはふとん乾燥機で乾かす



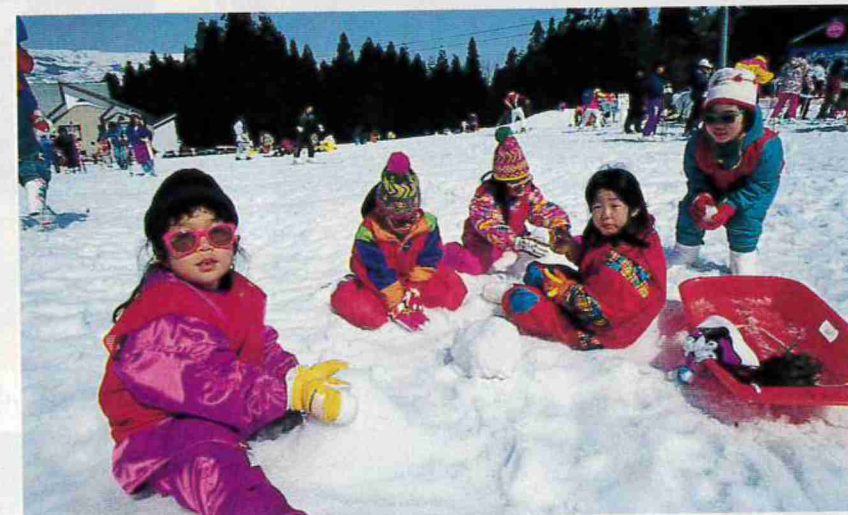
子供の好物メニューで食欲をそそる



コーチが携帯する子供たちの必需品



もっと、もっとスピード出してー。かしまし娘3人組の豪快なソリ遊び



おだんごや雪のお山をつくるのも楽しいよね。腰を据えて熱中する女の子たち



舞子高原に勢揃いしたコーチと子供たち、総勢88名

いつものお友達と いつものコーチといった サッカークラブの スキー合宿ドキュメント



何をしてもおもしろくて、笑いが止まらないよ

みんなで、協力しあい、行動をともにするスキー合宿。さまざまな個性のぶつかりあいのなかで、子供だけの世界で過ごす3日間。かけがえのない貴重な体験は、子供の成長に大いにプラスになることだろう。

撮影=高橋 明



冷たくて気持ちいいネー

見ててよ、ボクの滑り



ちゃんと前の人についていけないと迷子になっちゃうよ

1日目 滑る前にまず、思う存分 雪とスキンシップ

「おはよう」。子供たちのにぎやかな声が響きわたる。朝の上野駅。仲よしのあの子もいるし、大好きなコーチの顔もある。屈託のない笑顔が、そこかしこに広がっている。73名の小学新1年生と15名のコーチ。「いつてきまーす」と元気いっぱい、新幹線に乗り込む。車中、子供たちとコーチが入り乱れて大騒ぎ。到着までアツという間の1時間30分だった。

参加した子供の半数はスキー初体験。期待と興奮のなか、心はずでにスキー場へ。まず、雪と思いつき遊びながら開始。雪合戦にソリ遊び、みんなで協力して、大きなかまくらまでつくっちゃった。次は、ブーツで歩く練習。誰がいちばん速く、コーチの場所まで行けるかな。今度は、スキーをはいて歩いてみる。アレ? 前に進まないよ。焦らずゆっくり頑張つて。アツという間にリズムに乗って、全員が上手に歩けるようになった。安全な転び方や、ジャンプしてハの字に着地する練習も、スムーズにできて、今日の練習はおしまひ。寝る前に座布団を使ったリフトの乗り方、降り方をマスター。あんまりユニークで子供たちは、真剣ながらも大はしゃぎ。明日が楽しみだね。

2日目

いよいよスキーに挑戦 期待と不安でドキドキ

今日から、いよいよ本格的にスキーの練習がスタートする。みんな、ちょっとドキドキ、でも相変わらず大騒ぎ。15名のコーチたちは、右に左に大忙しだ。まず、バスでファミリーゲレンデの上まで行き、そこから、6名1グループでボーゲンの練習。滑っていく友達に「頑張れ、頑張れ」の声援を送る子供たち。一定の距離にいるコーチのところまで、板をハの字にして、そろりスタートしたかと思いきや、

「アー! 先生、止まれないよー」と叫びながら、はるか先まで、転びもせずに暴走してしまう子。かと思えば、最初から尻もちをついた状態で滑っていく子。などなどイヤイヤといった感じ。コーチの敏速な対応で全員無事に滑り終え、やったね! と余裕しゃくしゃく。これから、リフトに乗ります。昨日の夜、練習したことを思い出して、焦らずゆつくり乗ろうね!

とコーチが話すと、みんな、なんだか不安そう。リフトに乗り込む、その顔は真剣そのものだ。そして、コーチに教わったとおり見事に成功した。やるときは、やるもんだ。1本滑り終えたところで、ランチタイム。メニューは、もちろん、子供たちが大好きなカレー。

さあ、午後も滑るぞー! ボーゲンで一列になって、前方にいるコーチの元へレッツゴー。両手、両足を十分に開いて止まり方の練習や、ヒザに手をかけて、スムーズに体重移動を行ないターン時のキックを体で覚えていく。スキー上達の糸口は、友達が頑張っている姿を見て、勇気を奮い立たせることなのかもしれない。